

支援センター名	山中町体験活動ボランティア活動支援センター
所在地	〒922-0112 石川県加賀市山中温泉西桂木町ト10-1 山中児童センター
連絡先	Tel 0761-78-3536 Fax 0761-78-3536

事業の概要とポイント

山中町にある3小学校・1中学校には、「ボランティア委員会」などボランティアを行う児童・生徒の委員会がある。町内全戸対象に、子どもが出来るボランティア・体験活動推進の情報誌を発行したり、実際に行った体験活動の紹介を行ったりした。

生徒達から、学校内だけではなく、校外の活動でも様々な体験活動を行いたいという意見があったので、学校の枠を越えて児童生徒対象のボランティアグループを結成し、児童館を拠点に活動を行った。

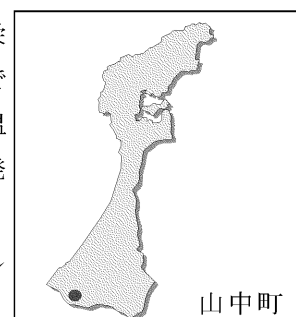
関係した学校・団体等の名称

菅谷小学校、河南小学校、山中小学校、山中中学校、山中町立婦人児童館、児童生徒ボランティアグループ「山中チャレンジクラブ」

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 山中町 9,800人

本町は、石川県の南に位置し、古くから温泉と漆器の町として栄えてきた。現在の中心産業も温泉を生かした観光産業と漆器産業である。町内には、町民が「総湯」と呼ぶ共同浴場が3カ所あり、温泉を中心とした町民同士の結びつきが深い。近年は温泉街の再開発と共に自然環境を生かしたまちづくりを進めている。この10月1日には、お隣の加賀市と合併し、新「加賀市」となることが決定している。



企画から活動までの経緯

平成16年

- 2月 15年に保育ボランティアに参加した生徒達より、もっと活動をしたいという意見が届く。
- 3月 児童館職員・教育委員会職員が集まり、話し合いを持つ。

- (1) 子どもたちのボランティア・体験活動を推進するための情報誌を発行する
- (2) 学校の枠を越えたボランティア・体験活動ができるよう、活動グループを結成し、参加者を募集する。

上記の2点を決める。その他、活動場所の拠点を婦人児童館とすること、参加対象は、小学生4年生以上・中学生とすることを決める。

(1) について

- 4月 編集方針 町内外の子どもに関する体験活動・ボランティア活動の情報を載せる。そのために、児童館・保健センター・図書館との連携を密にする。体験活動等で子どもたちの活躍を載せる。町内小中学校のボランティア委員会などの活動を表紙とする。子どもが参加できるボランティア・体験活動の情報を広く集め載せる。町民にボランティア活動などに興味関心を増してもらうため、全戸配布とする。コーディネイターが編集を行うと共に「子どものボランティアグループ」と連携をとった内容としていく。
- 5月 体験活動・ボランティア活動推進情報誌「春号」発刊
- 7月 体験活動・ボランティア活動推進情報誌「夏号」発刊
- 10月 体験活動・ボランティア活動推進情報誌「秋号」発刊
- 1月 体験活動・ボランティア活動推進情報誌「早春号」発刊

(2) について

- 4月 町内3小学校・1中学校へ児童生徒対象のボランティア体験活動グループ参加募集を行う。
- 5月 児童生徒ボランティアグループ「山中チャレンジクラブ」を結成
活動計画を児童生徒達と共に作成

【いい花お散歩号ガイドボランティア活動】の例

- 6月 町内で観光客を対象に運行している「町内循環バス：お散歩号」に乗車し、町内の名所のガイド（バスガイド）が出来ないか検討する。
- 6月1日 お散歩号を運行している旅館組合とコーディネイターが打合せをする。
- 6月5日 お散歩号が立ち寄る町内の名所を訪ねると共に、「お散歩号」に乗車し、ガイドの講習を受ける。
- 6月12日 「お散歩号」に乗車し、ボランティアガイドを行う。
コーディネイター・児童館職員と共に参加
- 7月24日 「お散歩号」に乗車し、ボランティアガイドを行う。
- 11月20日 「お散歩号」に乗車し、ボランティアガイドを行う。

【その他体験活動事例】

- 7月 風谷探訪－在町外国人ディビットと共に
- 7月 保育所訪問－町内各保育所で
- 8月 観光客の「お茶接待」－老人ボランティアグループ「お達者会」と共に
- 8月 ジャパンテントに参加。留学生を町内案内する。

- 1 0 月 児童館行事「ハローウィンパーティー」のアシスタントを務める。
社会福祉協議会主催「ボランティアのつどい」の収集コーナーを担当する。
- 1 1 月 山中幼稚園を訪問
- 1 2 月 児童館行事「楽しいクリスマス」のアシスタント
 - 1 月 福祉施設「はるる」の訪問計画を作成
 - 2 月 福祉施設「はるる」を訪問
 - 3 月 町主催「子どもフェスティバル」のための昼食「豚汁」を作る。

事例の展開内容（特色など）

山中町の3小学校・1中学校には、「ボランティア委員会」等の名称で子どもたちが活動する委員会がある。そこでの活動経験をもっと生かしたいとの生徒達の意見をふまえ、学校の枠を越えて活動できる児童・生徒達のグループを結成することにした。また、大人達にも子どもたちの体験活動やボランティア活動の重要性を啓発すると共に、活動例を発信することで活動への理解が深まると考え、町内全戸対象に情報誌を作成・配布することにした。情報誌の作成並びに活動グループの活動計画を作成したり、町内各所との打合せをしたりすることは、すべてコーディネイターが行った。このことにより、コーディネイターに情報が集約され、情報誌の作成と児童・生徒達のボランティア・体験活動がリンクされたものとなっていった。

町内の3小学校では、3・4年生の総合的な学習の時間に町内の歴史や記念物などについて調べている。また、旅館組合が観光客へのサービスの一環として町内を一巡し、観光スポットを案内する「いい花 お散歩号」を運行し、そのガイドは町民がボランティアで行っている。

活動計画を立てる際に、「お散歩号ガイド」に是非取り組んでみたいという声が、子どもたちから出たので、コーディネイターが旅館組合と相談してみた。

旅館組合も初めてのことであり、当初は困惑していたが、子どもたちがすでに町内の歴史を学んでいること、体験活動の一環であることなどを説明することで協力が得られた。

まず、子どもたちがバスの運行状況や大人達から学ぶために、6月5日（土）に「お散歩号」に乗車した。その後、当日のガイドを担当した町の人から、講習を受けた。

6月9日（水）児童館に集まり、再度ガイドの練習を行った。

6月12日（土）バスの運行区間を4ブロックに分け、各2人ずつでガイドを担当した。やや早い時間帯（2時出発）であったためか、乗車していた観光客は12名と少なかったが練習の成果を十分発揮できた。ガイドが終わるとその都度、観光客から拍手がわいた。また、「大変かわいらしいガイドさんと出会えて今日は運がよかった」とおっしゃるお客さんもあり、好評であった。

この活動事例を情報誌「あのねっと」に掲載し、町内全域に活動を伝えた。その後、老人ボランティアグループ「お達者会」の代表から「お手伝いをしてほしい」との要望があり、次の活動へつながった。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

豊かな心を育む地域教育活性化事業の中の一部門である、「学社連携推進委員会」の委員としてコーディネイターが参加している。そこで各学校の総合的な学習の年間計画が説明され、その趣旨や流れをコーディネイターが把握していたので、学校外であっても子どもたちがどの程度の活動が無理なく出来るのかが設定しやすかった。また、活動を実施する際の課題も、町内の人間関係が密であるので各団体と直接顔を合わし、話すことで解決が速やかに図ることができ、学校（子どもたち）と活動内容との連携がうまく図れた。同様に、情報誌の作成についても、コーディネイター自身の情報の広さと共にコーディネイターが他の事業とクロスして参加することでより広い情報を得ることが出来た。

評 価

体験活動情報誌を全戸配布することで、登場する子どもたちの活動が地域の話題となったり、子どもがおとなりのおばあちゃんにほめてもらったりということもあった。もちろん、個人を特定できる写真や記事であるので掲載前の承諾は大切なことである。

これら「頑張っている子どもたち」の姿が次の活動情報を呼び込んで来るというよい循環が生まれた。

また、活動に参加した子どもたちにとっても、お年寄りに喜ばれたという体験や保育所・幼稚園訪問では子どもたちに喜ばれたという体験が次の活動意欲につながっていった。

これらの活動のよさは、普段からの顔の見える町民同士のつきあいがよい成果をもたらしたと感じている。

今後はより内容の充実した情報誌となるべく、広く情報を集めると共に、情報が集まってくるようアンケートを実施したり、読者の感想を載せたりしていきたい。また、子どもたちの活動の範囲が広がり、充実していくと共に、学校の課外活動との調整が課題である。

活動風景



情報誌 あのねっと



あのねっと記事



ガイドの様子

執筆者職・氏名：山中町教育委員会生涯学習課 派遣社教主事 竹中哲男